

(1) 教育学部（教員養成）の附属学校
《設置目的》

本校の使命

①日々の実践

知的に障がいのある児童生徒を対象に教育を行い、
個々の能力を伸ばし、自立への意欲を育て社会生活の適応を高める。

②人材育成

大学教員や学生の教育研究に協力するとともに、
教育実習の指導にあたる。

③研究の推進・地域への発信

特別支援教育について、理論的、実証的研究を推進するとともに、地域の障がいのある幼児児童生徒やその保護者及び幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支学校への支援の充実に努める。

(2) 学校教育法に定められた特別支援学校
(準ずる教育、障がいによる学習上・生活上の困難の改善)

学校教育目標

豊かに人や社会と交わり、自ら進んで取り組み、
自己表現できる子どもの育成

めざす子ども像(より具体的な姿)

明るく元気な
やさしい子

人や社会と豊かに
交われる子

自分から進んで取り組み
自己表現できる子

学部目標

学校・学部行事等

指導の形態

教材

指導内容

指導時数

その他

教育課程編成

指導方法

指導実践

児童生徒の実態

学習指導要領

令和7年度 重点目標

① 目的を持ち、主体的に活動する子どもを育てる教育環境・支援の充実

② 生きる力を育む指導の充実

重点目標		取組の具体
① 目的を持ち、主体的に活動する子どもを育てる教育環境・支援の充実	○「明るく、元気な、やさしい子ども」等、望む姿を目指した支援の充実 ○「目的を持つ」7つの姿や「主体的に活動する」7つの姿を目指す支援の充実	○指導改善のためのPDCAサイクルの確立 ・日々の授業観察で改善箇所のチェック （管理職・学部主事：4月～2月） ・各自、『具体目標』の設定（5月） ・前期（9月）・後期（2月）での自己評価、管理職との改善に向けて協議 ・チェック表での自己評価（各学期末） ○子ども意欲等につながる指導の改善（第4次研究、第10次研究の考え方の実践） ・「できないこと」ではなく、「できること」に着目した実態把握 ・「子どもの得意なこと」に着目した能力・適性を生かした支援 ・言語活動の充実 ・活動することの「良さ」「意味」を理解するための支援 ・「子どもの思いに寄り添う、子どもの立場に立つ」指導・支援 ・「できること」をさらに伸ばし、広げる支援の工夫 ・子どもが具体的に、肯定的な目標を持ち、目的意識を持って活動するための支援 等
	○安心・安全な学校づくりの推進	○実効性のある訓練による「危機管理意識」や「対応スキル」の向上 ・救急救命訓練の実施（4月） ・各学部での緊急時等におけるシミュレーション訓練の実施（年間6回以上実施） ・「学校泊を想定した訓練」「四校園、保護者共同訓練」の実施と検証

重点目標		取組の具体	
② 生きる力を育む指導の充実	○『生活上の課題』を解決する力を育む「各教科等を合わせた指導」における「授業構想の仕方」の定着	○第三次研究の研究成果を活用した特定授業研究会に向けての取組（～7月4日） ○教育実習指導等での実践、定着（9月、11月）	・「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」の授業公開及び指導案審議・指導案作成 ・公開授業（特定授業）実践事例の ホームページでの公開 ・フォローアップ研修等、「教育委員会主催の各種研修」での情報発信 ・授業研究会指導案を基にした教育実習生用指導案の様式の作成 ・9月～12月の授業構想等、改善箇所のチェック（管理職、学部主事、教務主任、研究主任） *「研究部」と「教育実習部」との連携
	○小・中・高等部一貫した教育課程の編成	○「教務部」「研究部」が一体化した取組の推進	・経営会議での定期的・計画的協議【一学期】 ・「各教科等を合わせた指導」 ...学習指導案様式・記述要領の作成（7月まで） ...学習指導要領に対応できる単元（題材）設定・内容設定 ・「教科別の指導」 ...授業研究【夏季休業中以降】 ・PDCAが円滑に機能する教育課程編成スケジュールの提示（8月上旬） ・目的に応じた教育課程検討グループの設置・運用（9月～） ・目標・取り上げる内容、教材、指導時数、年間の配列、他学部との連携、教科間の連携等の改善（9月～） ・教育課程本編、資料編の作成 *「教務部」と「研究部」との連携

令和7年度 学校運営のポイント

情報発信

- 教育委員会との連携
- ホームページの充実・地域への発信
- 教育相談
- 地域・四校園との連携
(行事への参加、作業製品の販路拡大、交流及び共同学習)

進路指導の充実

- 一人一人の適性に合った進路指導
- 小・中・高一貫した進路指導
- 進路指導に係る各種研修の充実

風通しのよい職場づくり

- 授業改善を相談し合える体制整備
- 少人数の中で、困りに対して、「支え合う」指導体制

①子どもにも大人にも優しい、教育環境の整備

組織的な学校・学部運営

- 目的を踏まえた会議の設定
(役割、活用、実施時期の検討)
- 効率的な決裁、報・連・相ルートの確立

日々の授業改善

専門性の向上

- 「各教科等を合わせた指導」の授業構想
実習指導（一人一実践）、教育センター研修の活用

適切な教育課程編成

- 「各教科等を合わせた指導」
・学習指導要領に対応できる単元（題材）設定、内容設定
- 「教科別の指導」
・授業研究をもとに、令和8年度の題材配列の検討

②「教務部・学部」「研究部」「教育実習部」 一体となった取組の推進

安全で、安心な学校づくり

- 目的を持ち、主体的に活動する子どもを育てる教育環境・支援の充実
- 危機管理意識、対応スキルの向上
- 多様な課題に応えるための、大学資源の活用を含めた外部連携

働き方改革

個々の業務のフラット化、スケジュール管理の徹底、
業務の精選、会議の充実、学部全体で支える支援体制